

いわての復興教育

令和元年6月24日(月)に東山地域交流センターにおいて『管内復興教育研修会』を行いました。「いわての復興教育」についての講義と「平成30年度いわての復興スクール(内陸)」実践校2校の実践発表、震災当時、副校長として様々な対応をされた門間校長先生の講話を通して「いわての復興教育」の充実の視点について考える機会となりました。



管内復興教育研修会

実践発表 「いわての復興教育スクール(内陸)」 実践校の取組について

講義 「いわての復興教育の推進について」

<奥州市立前沢小学校> 発表者：主幹教諭 千田 祐子

「実践的な防災教育の充実を目指して」

(取組内容)

- 1 各関係機関と連携した保護者への引渡し訓練の実施
- 2 様々な事例に対応した避難訓練の実施
- 3 外部専門家を活用した地域安全マップ作り
- 4 特別な配慮を必要とする児童に対しての安全確保
- 5 副読本の年間指導計画に沿った活動実践



【成果と課題】

<引渡し訓練>

- 事前に児童、保護者、関係機関が有事の際の行動について共通理解を図りながら引き渡し訓練を実施したことにより、子ども達が引き渡し時の自分の動きについて理解することができた。
- 防災教室を通して子ども達の防災意識を高めることができた。
- ▲成果と課題をもとに計画を見直し、他の教育活動とのバランスに配慮しながら継続して取り組む必要がある。

講師：岩手県教育委員会 学校調整課

主任指導主事 小松山 浩樹

★H31.3改訂した「いわての復興教育」プログラム第3版をもとに、これまでの取組の成果と課題や改訂のポイント、本年度の方針について共通理解を図りました。また、復興局からは、今秋陸前高田に開館予定の「東日本大震災 津波伝承館」について紹介されました。



講話 「震災を語り継ぐ」

講師：一関市立萩荘小学校

校長 門間 健一 先生

★震災時、陸前高田市立第一中学校副校長として、避難所運営の陣頭指揮にあられたときのご苦労や、震災を風化させないために、今後大事にしていくべき内容等について詳しくお話していただきました。一人ひとりが復興のために何ができるか、何をしなければならないのか、改めて考える機会となりました。



<研修者の感想から>

- ・教師としての使命や根っ子の部分を考える機会となりました。大きな視点をもって教えていくこともしっかりと心に留めたいです。
- ・「相手の気持ちに寄り添う」ことは、どんな状況でもとても大事だと思いました。
- ・生徒やその家族、地域の方々の安全・安心を守るために、最善を尽くした当時の被災地の学校の大変さや苦労を知り、改めて学校が果たした役割の大きさを実感することができました。
- ・門間先生が最後に話された「沿岸と内陸の温度差・・・」まさしくその通りです。教員である私達がそうなのですから、子どもたちはなおさらです。風化させないためにも、復興教育は本当に必要なのだと感じています。

<一関市立大原中学校> 発表者：副校長 大和 浩
「生徒の主体性を育てる持続可能な復興教育」～2in1の考え方で地域とよりつながる学習を～

(取組内容)

- 1 防災・安全
通学路自己チェック、全校防災学習(DIG)、緊急集合訓練各学年防災授業、生徒会避難訓練
- 2 ボランティア・地域づくり
高田松原植樹祭、陸前高田被災地復興ボランティア、大原まちづくり学習会



【成果と課題】

<高田松原植樹祭>

- 安全指導、防災学習に特化することなく、取り組みを通して発表力や話し合いの力を高める「2 in 1」の考え方で実践することができた。
- まちづくり学習を通して地域課題への気づきを得たり、地域の方々のつながりを強めたりすることができた。
- ▲発達段階に応じた防災授業の位置付けを行う必要がある。

本年度は、一関市立川崎中学校が「いわての復興教育スクール(内陸)」の指定校として、川崎小学校、川崎保育園との連携を図りながら、災害安全を重点とした取組を進めています。